

臨時教育研究評議会議事録（第30回）

日 時：平成18年8月21日（月） 10時～12時

場 所：事務局第一会議室

出席者：平山，齋藤，玉，大野，菊地，高塚，砂山，星野，馬場，藤井，雑賀，井上

杉浦，牧，村上，菅原，千葉，長谷川，井山，清水，高畑，木村，上村

欠 席：森

議 題

1. 全学一元的教員所属組織としての「学系」（案）について

学長から，全学一元的教員所属組織としての「学系」（案）についてが，提案された。次いで，齋

藤理事から教育研究組織検討専門委員会での審議経過について，また，

高塚副学長から教育研究組織検討ワーキンググループでの審議経過について，配付資料1 -

1～1-2に基づき説明があった。

審議において，「学科の自主的判断の尊重について」，「学部組織再編及び改革との適合性に

ついて」，「教職課程認定との整合性について」，「今後のスケジュールについて」，「学系領域

区分毎の教員構成について」，「中期目標・中期計画に掲げている教育に関する目標を達成す

るための大学院（修士課程）を機軸とした教員運用システムの構築との関係について」，及び「

組織・教員数の見直し時期について」に関して意見等があり，高塚副学長から，最終的な教育

責任は学部教授会・研究科教授会が担うこと，各学部の自主的な組織検討については組織検

討委員会が全て行うものではないこと，教職課程認定については教員養成機構との連絡を図

りながら岩手大学としての教員養成を考えていきたいこと，各学系に所属する者は複数の学部

構成が望ましいが教育分野によつては難しい学系もあること，大学院の教育研究のレベルアツ

プに軸足を据えた教員の配置も可能である旨の説明があった。また，齋藤理事から，学系にお

ける組織・教員数の見直しについては、3年毎の見直し時期に拘わらず、必要があればその都

度見直しを行うことの説明があった。

学長から、今後のタイムスケジュールとして、来年4月からの職位の変更に併せて、学系の組

織をスタートさせたい旨の発言があった。

審議の結果、配付資料1-1及び1-2についての基本的方向について本提案を了承した。

なお、学長から、本提案内容については、各学部教授会構成員に周知・確認願ひ、より理解を

深めていただきたいこと、及び9月教育研究評議会では学系、課程会議、学科会議、専攻会議

等についての学則への盛り込み方等についての提案を行いたい旨の付言があった。

2. その他

なし